

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者 グループホーム ゆうとみい
(ユニット名)	み い ユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本 2547-1
記入者名 (管理者)	笠毛 留美子 (大石弘敏)
記入日	平成 21 年 8 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型ということまで掲げていた理念を見直しその趣旨に沿って新しく作成し内容に近づけるよう努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者はじめ職員全てが理念を共有しその実践に向け日々努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームの玄関には新しい理念を解りやすいように大きい字で掲げている、家族の方々にはパンフレットに盛り込み理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に参加するようになると今まで以上に収穫したものの差し入れや声掛けが増えうれしい限りである。暑い中裏の土手の草取りをしてくださりすっかり綺麗になった。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人スポーツ大会に参加、昨年は準優勝をいただいた。スポーツは参加する事に意義があると言うがやはり嬉しいものである。昨年からはじめた夏祭りは、今年で2回目8月28日に企画している。昨年は子供の多さに驚いた。		昨年の初めての夏祭りの経験から今年の夏祭りはリクエストを受けてカラオケを取り入れる事になった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>二階に活用できる部屋があるので高齢者の方々の希望があれば絵・お花・お習字など等使用していただくかグループホーム指導でやってみようかと思っている。(自治会長・民生委員さんには伝えてある)</p>		<p>近いうちに画廊のような絵を下げる設備をする予定である。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年自己評価・外部評価を受けておりその意義も大分理解出来てきたと思っている、一つのきっかけとし評価の活かされたケアへの改善に努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議も一方的な施設からの報告に留まらず多くの意見が飛び出すようになりサービス向上に役立っている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>最近は地域包括支援センターと話す事も増えてきた。我々のケア向上への努力も少しずつ伝わり地域密着型に少しずつ近づいていると感じている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者・介護支援専門員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。内部研修で職員にもプリントを渡し説明している。現在はまだ活用している人はいない。</p>		<p>今後独居高齢者で必要性が出てきた場合それらを活用出来る様支援していこうと考えている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者・職員は虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち利用者にとって住みよいホームづくりに努め虐待のない生活をめざしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約の際充分検討していただき疑問点があれば納得いくまで説明を行い、ご理解していただいた上でサインをいただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族の意見は職員を通し管理者まで届いている、早急に対処している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの出来事、利用者の生活ぶりや健康状態は年二回の「ホームだより」や面会時に報告し預かり金の動きも随時公開しサインもいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方々の訪問も増え思っている事や利用者の過去の嫌だった生活状況なども話して下さるようになってきた、それらの話はケアなどに大変役立っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>入社間もない職員から「こうしたらどうか」という意見がでる。経験の長い勤務者にとっては目からうろこの事もあるようで運営者・管理者・介護支援専門員は喜んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の勤務についてはその時々で常に調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員に替わった場合は常に利用者に係わり早く覚えていただくように利用者一人一人の言葉や価値観、癖を覚える努力をするよう指導している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の社内研修・社外研修を行っている。特に社外研修は、一年間の予定を立てても研修日程が近くにならないと決まらないので予定通りにはいかないが、なるべく内容を吟味し研修を受けられるよう機会を与えている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会は今のところあまりないが、県の指導者がいる他地域のグループホーム研修は行っている。そして各自それぞれ吸収した分を自グループホームのケアに取り入れる事を心がけている。	地域の同業者との交流については、サービスの質を向上させていくためにも検討課題として、取り組んでいくこととする。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス発散に時々食事会カラオケ会を行っている。(職員同士で三味線を習ったりしている)	秋には慰安旅行を予定している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各自の努力を運営者が認め、よい意見は取り入れ「努力は報われるのだ」と言う事を自覚させ、向上心をもって働けるような職場づくりに努めている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自分から相談される方は非常に少なく話がまとまらない事もあるが会話の中から汲み取る事が多い。接する時間を増やし少しでも本人の思いを受け取れるよう努力している。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が大きな悩みとして抱えられていたことが施設に相談されることでとても小さな悩みとなる事が多く「早く相談すればよかった」と笑顔まで出るようになる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の時本人や家族の希望を聞きグループホーム対応ではないように思われる場合希望される社会資源を進めたりしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無料体験入所も行っている。病院などのショートステイなどから入居になる場合もありグループホームとショートステイの違いを話してもなかなか理解されない方もある。徐々に慣れられて「いつ迎えに来るの」が出なくなってくる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であっても残っている機能を活かされ学べる事も数多くある、職員と利用者がお互い支えあう関係にあるのは言うまでもない。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲で家族にも参加していただき家族と職員が同じ立場で利用者を支えていけるよう支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時はあまり良い関係とは思えなかった家族が少し距離を置くことでより良い関係が築けている、今の関係を支援していく。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り知人や友人との係わりを続けていけるようその方々をお願いして職員と一緒に支援していただけるよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者への寄り添いケアにより一人ひとりの性格、利用者同士の相性等を把握し、孤立せずに利用者同士が関わり合えるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>当ホームで最後を迎えられた方の家族の訪問が嬉しい。事情があり自宅へ戻られた方への自宅訪問など出会った方々との付き合いを大切にしている。</p>		<p>「病院受診の時や家族の用で近くへ来られた時は無料であずかりますよ」と伝えているがまだ連れて来られる事は無い。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向の把握に努め、出来る限り本人の意志を尊重しケアに取り組んでいる。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族から生活歴や今までの暮らし方等の把握をし、本人らしい生活が出来るよう支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>どの方も日々行動の変化が見られ総合的な把握に全ての職員が努力している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時の家族の要望、気付きによって得た情報、毎日の朝礼やケア会議から得た利用者にとっての最良のケアを介護計画に取り込んでいる。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者に即して作成しているが、高齢者でもありいつ体調変化が起こるかわからずプランの変更は期間とは関係なく行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の記録は個別に行っており、介護を共有するうえで非常に役立っているその情報は介護計画の見直しの元にもなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期をホームでとの要望が多くかかりつけ医に相談し最後を看取っている。(ドクターをすぐ呼ばれるが医療的処置は希望されずボランティアで対処してもらっている。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、民生委員、近所の方など地域資源との協働は出来ているとは思っているが本人の意向かと聞かれると何とも言えない。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	系列のサービス事業者の建物を貸していただき運動会をする予定でいる。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネジャーとの話し合いが出来る様になり今後協働していけるものと期待している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後かかりつけ医が出来た事で家族も気軽に相談されるようになり、利用者の健康状態に関心を持ってくださる方が増えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症に詳しい為利用者の精神面でも支えになってもらっている。当グループホームも認知症に対し三人の専門士が対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪診で利用者を良く知る看護職員と気軽に相談し健康管理をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、惑う事のないよう面会を密にし早期退院にむけ病院関係者と情報交換を行いホームへの受け入れ態勢を整えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について家族・本人と早い段階からの話し合いをしているが、当初は入院希望から当ホームでの看取り希望に変わるケースが多く、常に家族との相談とかかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有して対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期である利用者の苦痛を和らげる為かかりつけ医との連携を密にし本人が希望する事(出来る範囲で)に寄り添っている。急変にはかかかりつけ医が対応してくれている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が自宅に戻られた場合住居地のケアマネージャー家族と充分話し合い情報交換を行い居宅への訪問も行い支援が途切れる事のないようダメージを防ぐ為の努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライドの高い方が多く本人を傷つけない言葉掛けや対応に努めている。個人情報については各自職員のなかでも守る事の大事さを理解していると思っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の中でも自分なりに思いを話される方もあるが、話せない方については日頃の生活の中からもみ取り不安のない毎日と穏やかな日々を支援し、したい事、したくない事を見極める努力をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれのペースでの生活を応援している。起床から食事、そして入浴と同じ時間で全ての人の行動が重なる事はない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>昼と夜が一緒にならないよう朝着替えていただいている。毛染めも行き付けの美容室を利用されている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の準備のお手伝い、テーブルの準備もしていただいている。時々食べたいもののリクエストを伺い出来る限り希望に沿うよう努力している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みの果実酒、職員の庭で採れたサクランボ・ラズベリー・のいちごのジャムなど作り、好きな方に飲んだり食べたりしていただいている。季節に採れる竹の子・栗ご飯やホームのプラントナーのやさいの収穫など楽しんでいただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入所時オムツ対応の方もタイミングを見ながらトイレ誘導をする事によりトイレでの排泄が増えてきている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調で毎回変わっている。本人に合わせた入浴タイムを支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分の好きな時間に自由に自室で休まれたり眠られたり出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳の準備、食材の下ごしらえ、気候のいい日は花壇の草取り、日々の洗濯物たたみなどそれぞれの利用者が自分の出来る事をやる事で生活にメリハリが出る事を支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で判断の出来る方は月々いくらかの小遣いを管理していただき判断の出来ない方には買い物時支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣町のショッピングセンター、薬局、桜・藤・紫陽花などの花見などドライブがてら出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	体調に合わせて遠出もしている。時にはお墓が近い場合お墓参りのお供をする事もある。時々家族の方の面会時外食もお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に本人からかけられるようにしているが、電話は話した事を忘れられるのでお手紙をお願いする事もある。時々出して読んでいただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人の訪問は大歓迎である。自分の部屋で楽しいひと時を過ごされ、何度も来ていただく間に顔見知りになり他の利用者にも声をかけてくださるようになった。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が心がけてケアにあたっている。拘束対象禁止となる具体的な行為の説明はプリントで対処している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は全ての時間カギをかけないケアをしている。外に出ていかれる場合は離れて見守りながら対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室にお休みの場合は少しだけドアをあけていただいております。さりげなく見守り強化に努め昼夜を通し安全確認を心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりにとっての危険物を検討し、部屋内での危険防止に取り組みハサミ・針などは事務所で預かり自分で管理できる全てのものを部屋に置いていただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止のための環境整備に努めている。誤薬を防ぐ為一人ひとり名前を呼び2名チェックで確認している。火の元の管理に注意し職員は救急訓練も受けている。受けていない人々には徐々にうけてもらおうつもりである。防火管理者講習を受けた職員が4名いる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時の対応マニュアルは、ユニットごとに設置しているが、定期的な訓練は行っていない。		救急隊員による普通救命講習修了者は数名いるが、全員対象に講習受講の予定である。定期的な社内訓練の実施に取り組んでいくこととしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時自治会長・民生委員の方々にも緊急連絡網の中に入れていただいている。避難時には地域の方々のお手伝いをお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク対応には一応家族の承認は得ている。病気の急変など起こりうる事は家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色・排便・排尿など変化の気付きを重視している。良く気付く職員が中心となり利用者の健康管理に努めている。小さい気付きが大きい気付きにつながる事を各自自覚するよう指導している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の役割は普段から説明しているが、忘れた場合の為薬局からいただいている薬の役割と副作用の説明を近くにおき確認するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防の為牛乳・繊維質の野菜・イモ類など多く取るようにして薬に頼らない毎日を送っている。車椅子の人はソファに、ソファからテーブルイスに、そして車椅子へと体を動かす努力をしている。オムツ対応の方も便座に座っていただきお腹をマッサージしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時毎食後自分で出来る方もチェックし、出来ない方は全介助で口腔清潔に心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・食事の形態・水分の量(一日必要量以上)などその人に合わせ支援している。入居前の摂取量がとても少なかったと聞いていた方もジュース、蜂蜜とその時々で充分対応できている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防や対応についての取り決めがありその通り実行している。衣類乾燥も二台フル回転している。インフルエンザの時期は加湿器を使用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為に台の調理具などの衛生管理に努めている。新鮮で安全な食材選びに奔走している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植え事務所の入り口にもスロープをつけ高齢者の方でも安心して気軽に入れるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部分の光の調節をしている。(てんかんを持っている方がいらっしゃる)季節の花や壁には張り花で季節感を出している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の要望等も反映し、ホールにおけるソファや共同卓の様様替えの実施、座席の配置等を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自利用者の部屋は出来る限り自分の使い慣れたものを持ってきていただいている。今いる部屋を終の棲家と考えている方もいるようである。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が共有スペースにいられるときはどの部屋も窓を開放し臭いが留まらないよう心がけている。最近外の温度が尋常ではなく開放しすぎのないよう注意している。室内の温度調節はこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の為に安全な環境づくりは確保している。介護歩行の方も職員の手を支えとしてユニットからユニットまで歩かれる時がある。足痛を訴えられない限り歩行での排便・排尿を励行している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の統一ケアを心がけ一人ひとりに混乱が起らないよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ菜園で初きゅうりが取れた。葉物(しそ・なっば・ねぎなど)も採れ、草取りは涼しい日に職員と利用者で行っている。裏では緑竹の竹の子が今年三本収穫済みである。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 緊急時の夜間体制について、管理者が24時間当ホームに常駐しており、夜勤者2名(1ユニット1名づつ)の3名により対応し、安全強化に努めている。
- ・ 認知症ケア専門士の3名取得により、当ホームの認知症ケアのレベルアップと認知症110番の設置により、地域の高齢者介護に少しでも役立てればと考えている。